２０２４年7月１５日（月）

老球の細道８１３号

外で遊ばない子供たち

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

大雨が続いた翌日、孫息子と共に近くの田園地帯にドジョウとザリガニ捕りに出かけた。大雨の後のせいか農道を流れる側溝に、今まで見たこともない３０㎝位のナマズが３匹うろうろしていた。近づくと側溝を繋ぐ土管の中に２匹が逃げ込み、１匹が反対側の側溝に出て来た。早速孫から捕獲を命じられた私は竿付き網を延長させ、パワーポジションでそっとナマズにバスケット（網）を寄せた。ナマズをボールにイメージして網にバスケットカウントしようとしたが、巨大さにビビってしまい、もう一息のところで網から逃がしてしまった。

お化けのようなナマズをゲットして孫息子の歓喜の笑顔を見たかったが、願いかなわずであった。それでも孫の表情は凄い物を間近で見たせいか活き活きしていた。２年前にあいづ体育館の運動公園でオニヤンマをゲットした時と同じ表情であった。その日は家に帰ってからもお化けナマズの話題で盛り上がり、改めて孫と爺の絆は強まった。

その後、逃がしたナマズを捕まえるために私は何度も孫に連れ出された。友達と捕りに行くように勧めると、一緒に行く友だちがいないという。近所の同じ年頃の友達は、ほとんどが親の仕事のために学校を終えると「子どもクラブ」に行っている。だから近所で子ども同士が外で遊びまわってる姿もあまり見られない。

私の小学校時代は道路でリレーをやったり、近くの公園で野球をやったりしていた。しかし、今では道路は車が多くて遊べない。近くの公園ではボール遊びをしたり、声を出して遊んだりすると近くの住人から「うるさい」「危ない」と文句が出る。学校では教員の働き方改革で先生達が子ども達と遊んでいる暇もない。ないない尽くしである。

朝日新聞（7月１４日版）の記事によると、子どもたちの健全な成長のための外遊びが激減しているという。ある研究によると、５歳児の午前９時から午後４時までの歩数を計算したら、１９８５年～８７年は約１万２千歩だったのが、９１～９３年には7，８千歩に、９８年以降は５千歩となり、今の私の歩数の半分になっている。現代の平均外遊び時間は幼児で２０分程度、小学校低学年で３０分程度、高学年で４０分程度。これも私より少ない。

外遊びは、お茶の水女子大の発達心理学者によると３つの力が育つという。①視力：遠くの景色を見ることで近視を抑制②運動能力：全身の筋肉を動かして多様な動きができ、自己肯定感が高まる③言葉の力：自然との触れ合いが言葉のセンスを養う。

今の子ども達の環境には「三間」がない。安全な場所「空間」がない、習い事が多くて友だちと遊ぶ「時間」がない、「仲間」も集まれない。バスケットボールも「三間」がないと良いチームオフェンスはできない。「スペーシング（広い空間）」「タイミング（時間）」「チームワーク（仲間）」（忘れないようにするために私は『明石家三間』と名付けている）。

子ども達が伸び伸びと戸外で元気よく遊べる環境を作るにはどうしたら良いだろう。子ども達の環境、文化、教育にお金と手間ひまをかけない国に明るい未来はあるのだろうか。